

|                 |               |                    |  |
|-----------------|---------------|--------------------|--|
| 予選番号<br>(自分で入力) | 46            | 本選用番号<br>(予選後本部記入) |  |
| 学校名(正式名称)       | 千葉県立**** 高等学校 |                    |  |
| ふりがな            | ちば ほのは        |                    |  |
| 氏名              | 千葉 ほのは        |                    |  |
| 作者名             | 夏目 漱石         |                    |  |
| タイトル            | こころ           |                    |  |

【原稿内容】

私はその人をは常先生と先生と呼んでいた。だから  
らここのもただ先生と書けるで本名は打ちよ  
明けな。その方のが私に間を憚るか遠慮はいある。  
私は、その人の記憶を呼ぶ起す筆を執つてすぐ持  
「先生」事であらう。なりよい。そし文  
はとも使先先生と知り合はし海を掛けやた元は母は  
と私がその時をいと金を工面に着て友取った。あ  
る。暑中休暇の金工面に着て友取った。あ  
ぜひ少の金工面に着て友取った。あ  
多は金が鎌倉に受けてあ  
は私が鎌倉に受けてあ  
を呼ぶ電断つた。  
な  
友達結婚を心に見て母は  
ないに肝み京私に彼  
なかそれ休束をは際  
で電報に実  
も報に実  
り帰る

かねてから国元にいた。親は現代の習慣に  
強結婚するにあらは年が若過ぎた。そ  
の当然帰るにあらは年が若過ぎた。そ  
近くで遊ばない。あんなに。あんなに。  
見てい病で  
が病で  
は病で